

感染症内科

■ スタッフ

科長	土肥 薫
副科長	鈴木 圭
医師 併任	2名

■ 特色・診療対象疾患

感染症は、あらゆる臓器で発生するため、すべての診療科において感染症診療が行われています。しかし、各診療科のみでは対応が困難な感染症もあり、感染症診療の支援を目的に、2016年4月に感染症内科が設置されました。中央部門である感染制御部、中央検査部（細菌検査室）などの病院内の感染症関連部署や、免疫不全を扱う血液内科、重症感染症治療を担う救命救急・集中治療センターと連携して診療にあたるほか、不明熱/不明炎症に対しては総合内科と協力して診療を展開しています。

1. 当科の特色

- 入院病棟は持たず、院内コンサルトを主とする感染症診療支援を行っている。
- 院内のコンサルトに加え、週2回、院外向けの外来診療も実施している。
- 感染症診療に関する学生教育、研修医教育を実施している。

2. 主な診療対象疾患

- 細菌・真菌・ウイルスなどによる感染症（ただしHIV感染症・AIDSは血液内科と連携して診療）
- 入院中患者の感染症診療支援
- 薬剤耐性菌
- 成人向けの感染症検査・ワクチン接種（実習・就職前の感染症関連検査や海外渡航前のワクチン接種） など

■ 活動実績

感染症内科では、日本内科学会総合内科専門医・指導医、あるいは、日本感染症学会感染症専門医・指導医の資格をもつ医師が兼務で業務にあたっています。病院内の感染症対策を担う感染制御部と連携

して病院内の感染症診療支援を行っています。

1. 治療実績

- 外来・入院患者の感染症コンサルテーション（感染制御部と共同で実施）
- 重症感染症に対する積極的感染症支援

2. 教育活動の実績

- 医学部医学科3年生PBL-チュートリアル教育における感染症症例の提示
- 医学部医学科学生への感染症教育
- 初期研修医を対象とした教育プログラム（Mie Master Courses of Infectious Disease: MiMID）の実施

3. 臨床研究等の実績

厚生労働科学研究費補助金・地域における感染症対策に係るネットワークの標準モデルを検証・推進するための研究（H29-新興行政一般-001）（研究代表者：田辺正樹、研究分担者：鈴木圭）

- 抗菌薬適正使用に関する教育・施設における抗菌薬使用ガイドライン作成・普及に関する研究

■ 今後の展望

細菌感染症の治療薬である抗菌薬が効かなくなる薬剤耐性（AMR）が世界的な問題になっており、抗菌薬の適正使用が求められています。感染症はすべての医師が関わる分野であり、各診療科における感染症診療の支援を継続するとともに、今後の医療を支えていく医学生や研修医に対する感染症教育をさらに充実させていくことが当科の目標です。

当院は日本感染症学会認定研修施設の指定を受け、感染症専門医の取得を目指す医師のキャリア形成支援を行っています。内科領域のみならず、外科領域、免疫不全領域、救急・集中治療領域と、幅広く強みを持った特色のある感染症医を育成していきたいと考えています。

http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/kansens_honaika/